声なき感染症を知る ◆48◆

マダニが媒介する感染症

有効な薬ない疾患も
肌露出しない服装を

県感染症情報センター

ダニはさまざまな感染症を媒介します。ダニには多くの種類がありますが、今回はマダニが媒介する感染症を紹介します。

▽マダニが媒介する感染症

マダニとは、ダニ目マダニ科に属するダニの総称です。室内などにいるダニ（約0・5ミリ）に比べて、マダニは大型（3～8ミリ）で、主に野山に生息しています。

マダニが媒介する主な感染症は、近年問題になっている重症熱性血小板減少症候群（SFTS）のほか、日本紅斑熱、ライム病、ダニ媒介性脳炎です。

これらの感染症は4類感染症に指定されており、診断した全ての医師が保健所に報告することになっています。病原体を保有するマダニに刺咬（しこう）されることによって感染しますが、全てのマダニが病原体を保有しているわけではありません。

▽重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

SFTSの病原体はブニヤウイルス科フレボウイルス属に分類されるウイルスです。

発熱、全身倦怠（けんたい）感、消化器症状（吐き気、おうと、腹痛、下痢、下血）を呈することが多く、血液検査で血小板と白血球が減少するという特徴が認められます。

このウイルスに有効な薬剤はなく、治療は対症療法となります。

▽日本紅斑熱

日本紅斑熱の病原体はリケッチアという非常に小さい細菌です。

頭痛、発熱、倦怠感を伴って発症し、発熱、発疹、刺し口（マダニにかまれた痕の、赤く盛り上がったかさぶた）が主要な徴候です。

リケッチアに対しては有効な抗菌薬があり、早期に適切な抗菌薬治療を開始することが重要です。

▽ライム病

ライム病の病原体はボレリアという細菌です。

通常は、大きな赤い斑点がかまれた場所に現れ、ゆっくりと大きくなります。また、周囲にいくつか赤い輪ができることがよくあります。倦怠感、頭痛、発熱など、インフルエンザのような症状が伴うことがあります。

治療しなければ、発熱、筋肉痛、関節のはれが生じ、最終的には脳や神経の機能不全に関連する症状が起こります。

ボレリアに対しても有効な抗菌薬がありま

▽ダニ媒介脳炎

ダニ媒介脳炎の病原体はフラビウイルス科フラビウイルス属に分類されるウイルスで、主なものとしてロシア春夏脳炎ウイルスと中部ヨーロッパ脳炎ウイルスがあります。

ロシア春夏脳炎では、突然に高度の頭痛、発熱、悪心、羞明（しゅうめい＝異常にまぶしさを感じる病的な状態）などで発症し、その後順調に回復する例もありますが、他では髄膜脳炎に進展し、項部（うなじの部分）硬直、けいれん、精神症状、頚（けい）部や上肢の弛緩（しかん）性まひなどが見られます。

中部ヨーロッパ脳炎では、発熱、筋肉痛などのインフルエンザ様症状が出現し、2～4日間続きます。さらにその3分の1では、その後数日たって、髄膜脳炎を生じてけいれん、目まい、知覚異常などを呈します。

日本では、これまで北海道で4人の感染者が報告されています。

これらのウイルスに有効な薬剤はなく、治療は対症療法となります。

▽マダニが媒介する感染症の発生状況

日本における発生状況は表の通りです。なお、奈良県においてSFTSとダニ媒介脳炎の報告はなく、また日本紅斑熱とライム病の報告もほとんどありません。ただし、県外で感染する可能性もあり、マダニの活動が盛んになるこれからの季節には、特に注意が必要です。

日本における患者発生状況（人）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
SFTS	48	61	60	60	90
日本紅斑熱	175	241	215	277	337
ライム病	20	17	9	8	19
ダニ媒介脳炎	0	0	0	1	2

感染症発生動向調査年報より

▽予防方法

マダニが媒介する感染症を予防するには、マダニにかまれないよう注意することが重要です。草の茂ったマダニの生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボンを着用し、サンダルのような肌を露出するようなものは履かないようにしましょう。

マダニに有効とされている忌避（きひ）剤（虫よけスプレーなど）も、一定の効果があります。